

平成27年DPC調査と今後の医療需要

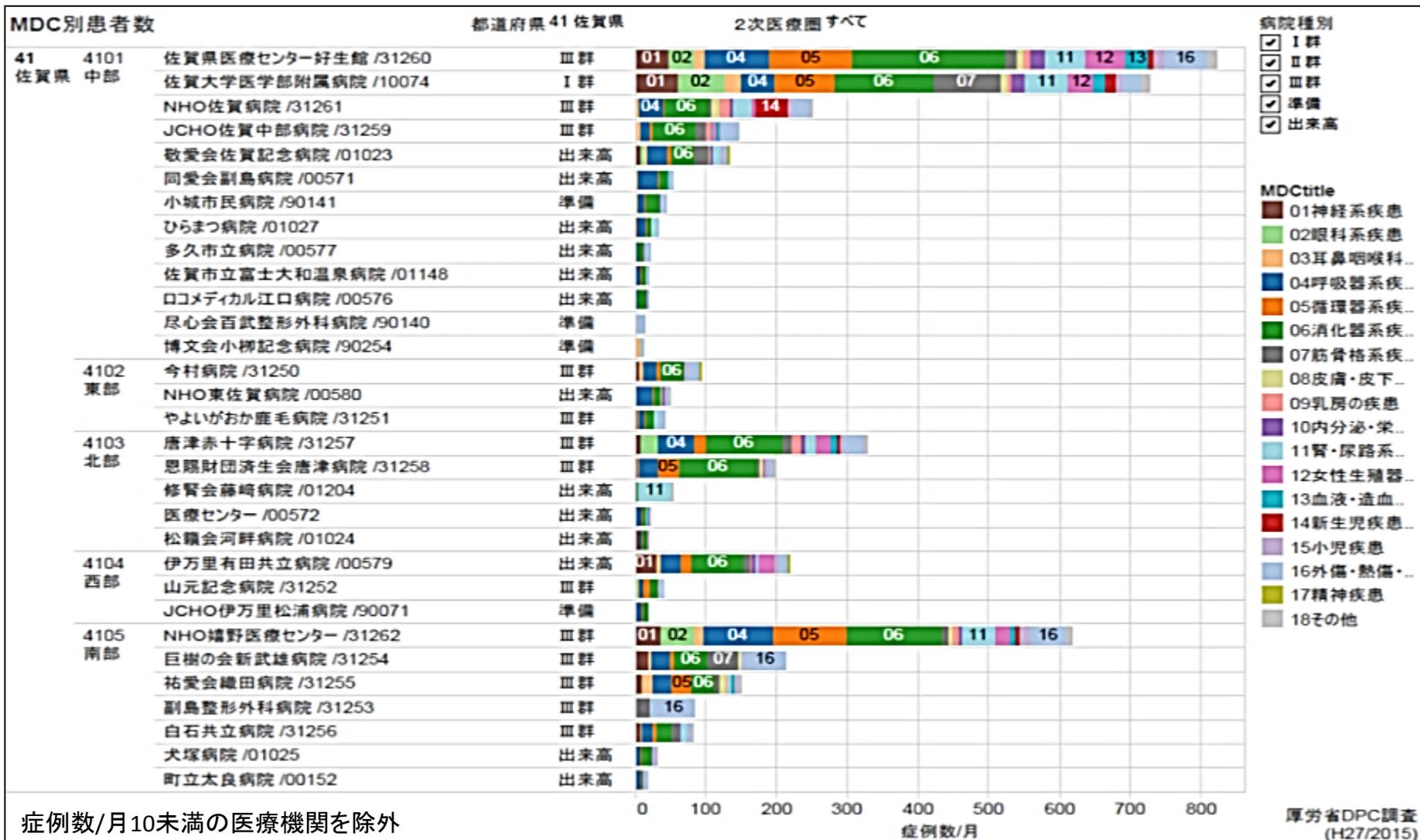
石川ベンジャミン光一・国立がん研究センター臨床経済研究室長のサイト(<https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/>)
で公表されているデータは、医療提供体制を把握する上で有益であり、自院の立ち位置を判断する上でも参考となる。
本資料は、同サイトにおける公表データを抜粋し、今後の医療提供体制の構築に向けた検討資料として整理したものである。

平成29年6月

佐賀県健康福祉部医務課

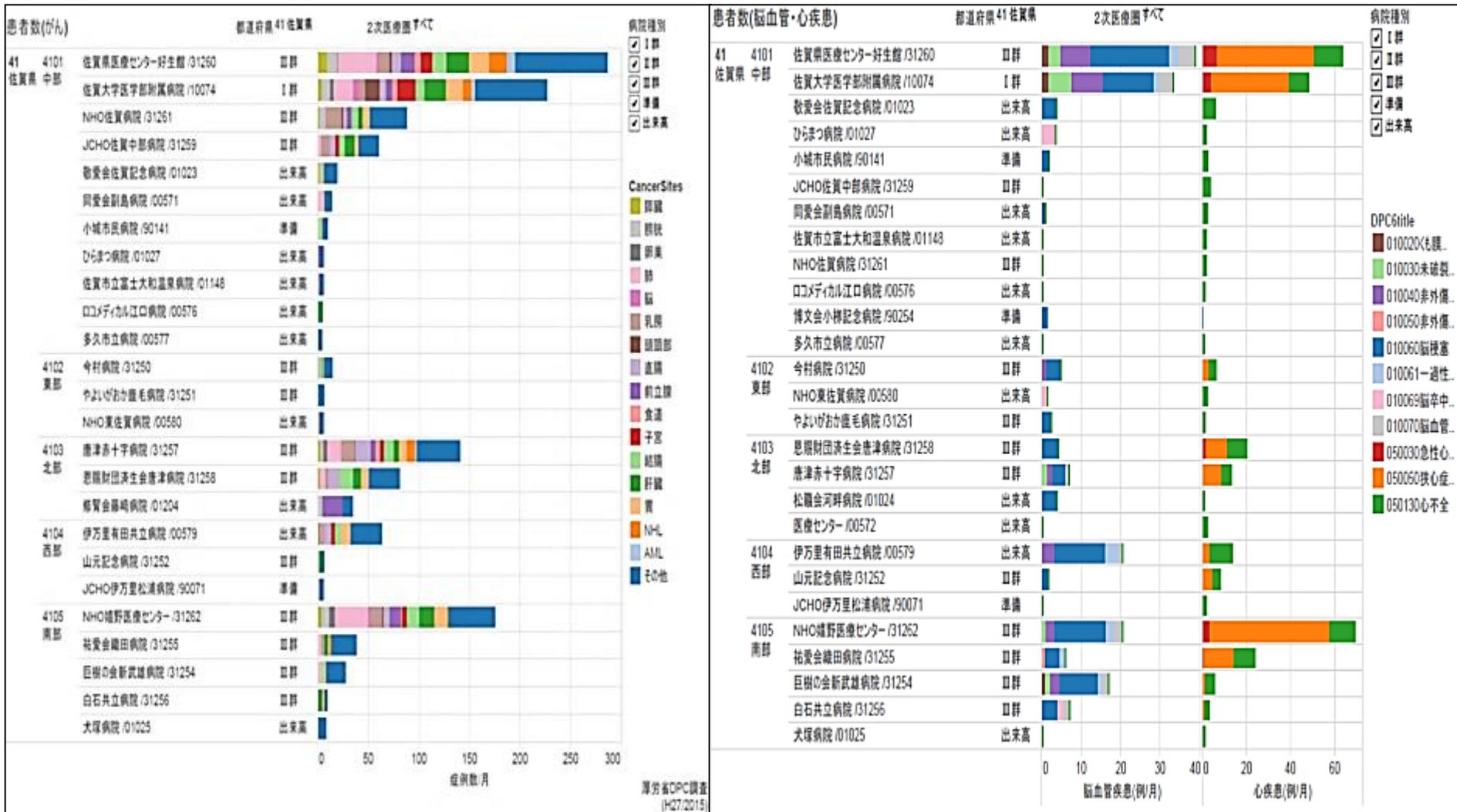
平成27年DPC調査・MDC別患者数

○ 医療圏ごとに基幹病院が明確であり、県庁所在地に基幹病院が集中せず、県全体でバランスがとれている。



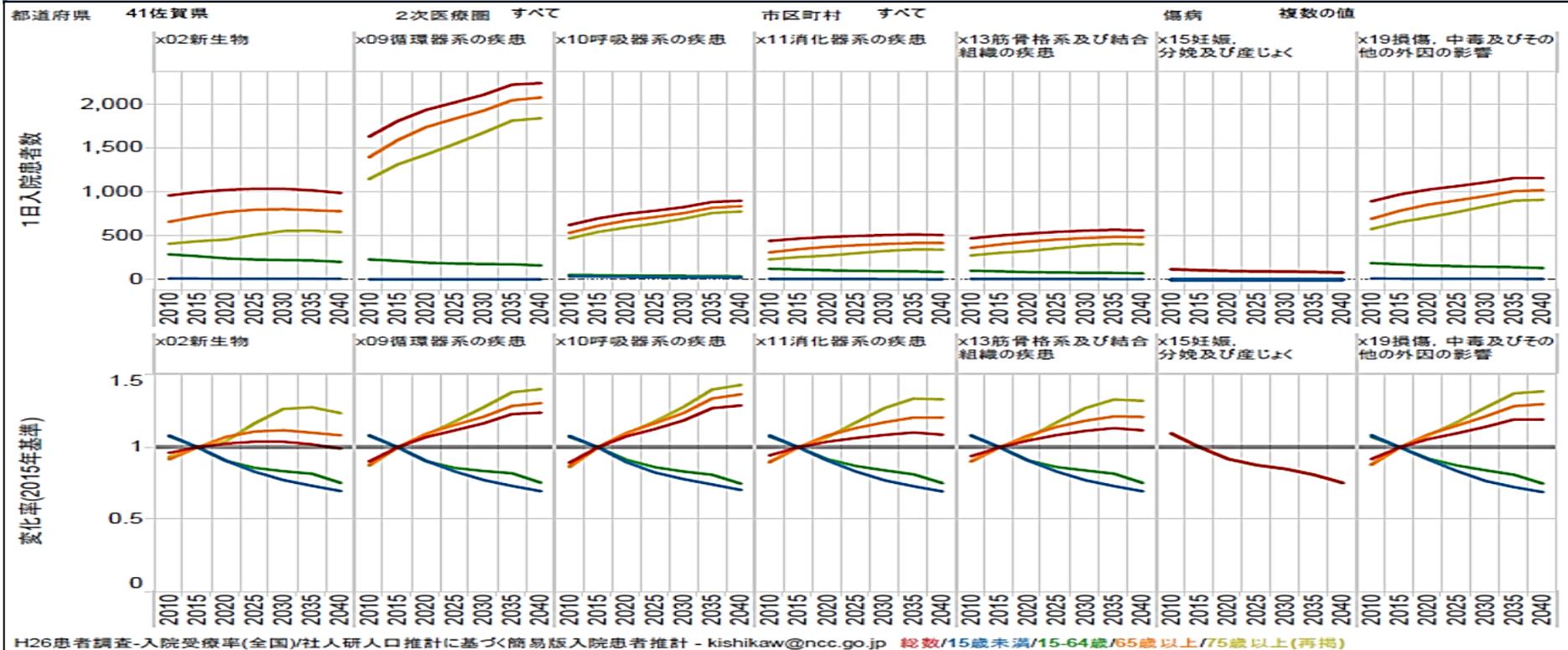
平成27年DPC調査・がん、脳血管、心疾患患者数

○ 3大疾患については、各医療圏において基幹病院をはじめ、診療体制が一定程度整っていることがうかがえる。



平成26年患者調査を基にした疾患分野別の入院需要推計

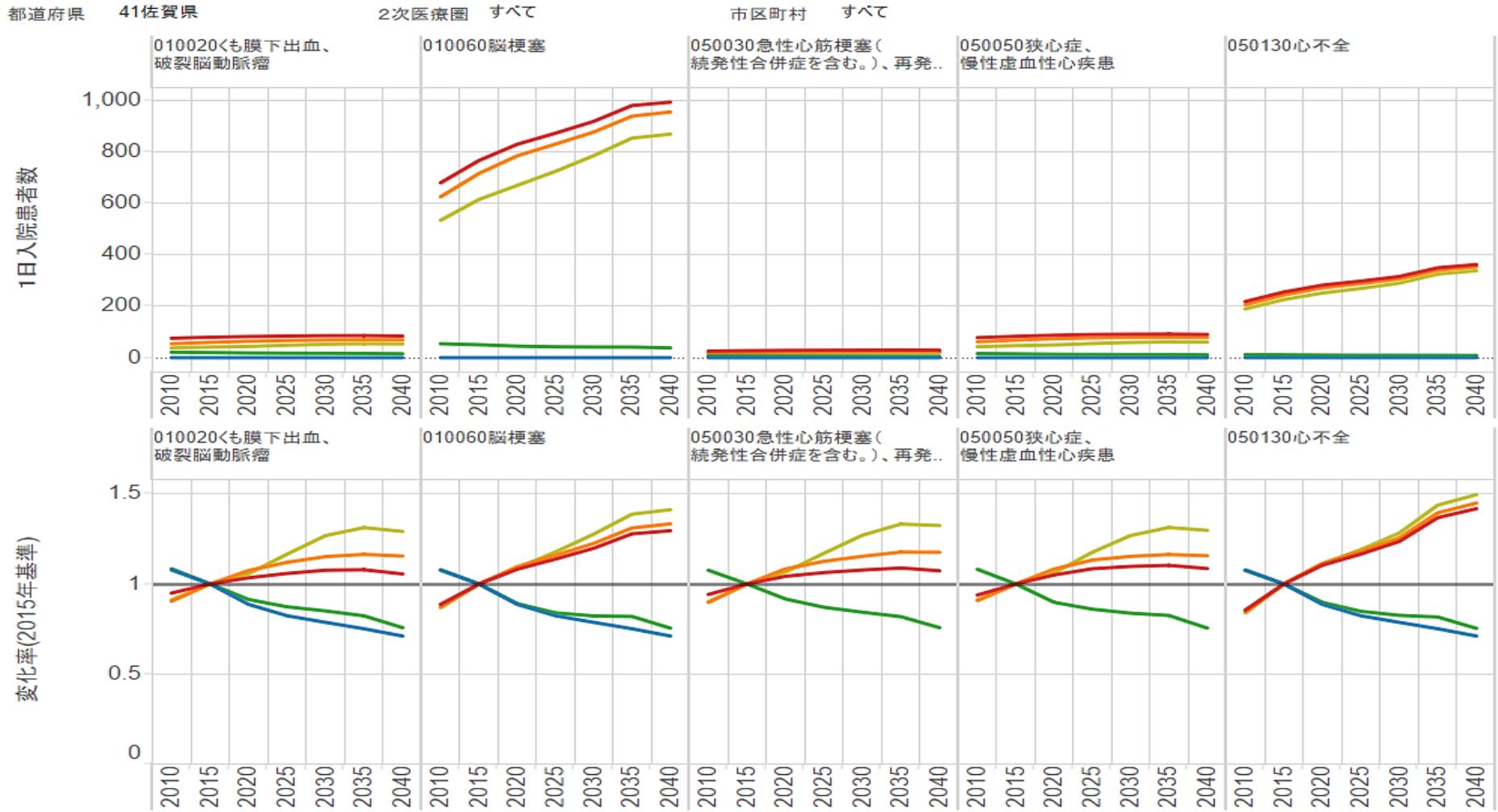
- 新生物は概ね横ばいであるが、循環器系、呼吸器系、損傷その他外因は、2040年まで伸び続ける。
- 2015年から2035年の伸び率を圏域別にみると、中部・東部の伸び率が高く、北部・西部・南部の伸び率が低い。



2015→2035	新生物	循環器	呼吸器	消化器	筋骨格	妊娠	損傷
県	1.02	1.23	1.27	1.10	1.13	0.81	1.19
中部	1.06	1.27	1.31	1.13	1.17	0.78	1.23
東部	1.31	1.42	1.47	1.24	1.27	0.89	1.36
北部	0.96	1.15	1.19	1.04	1.07	0.82	1.12
西部	0.97	1.17	1.21	1.06	1.08	0.83	1.14
南部	0.96	1.12	1.16	1.02	1.05	0.76	1.10

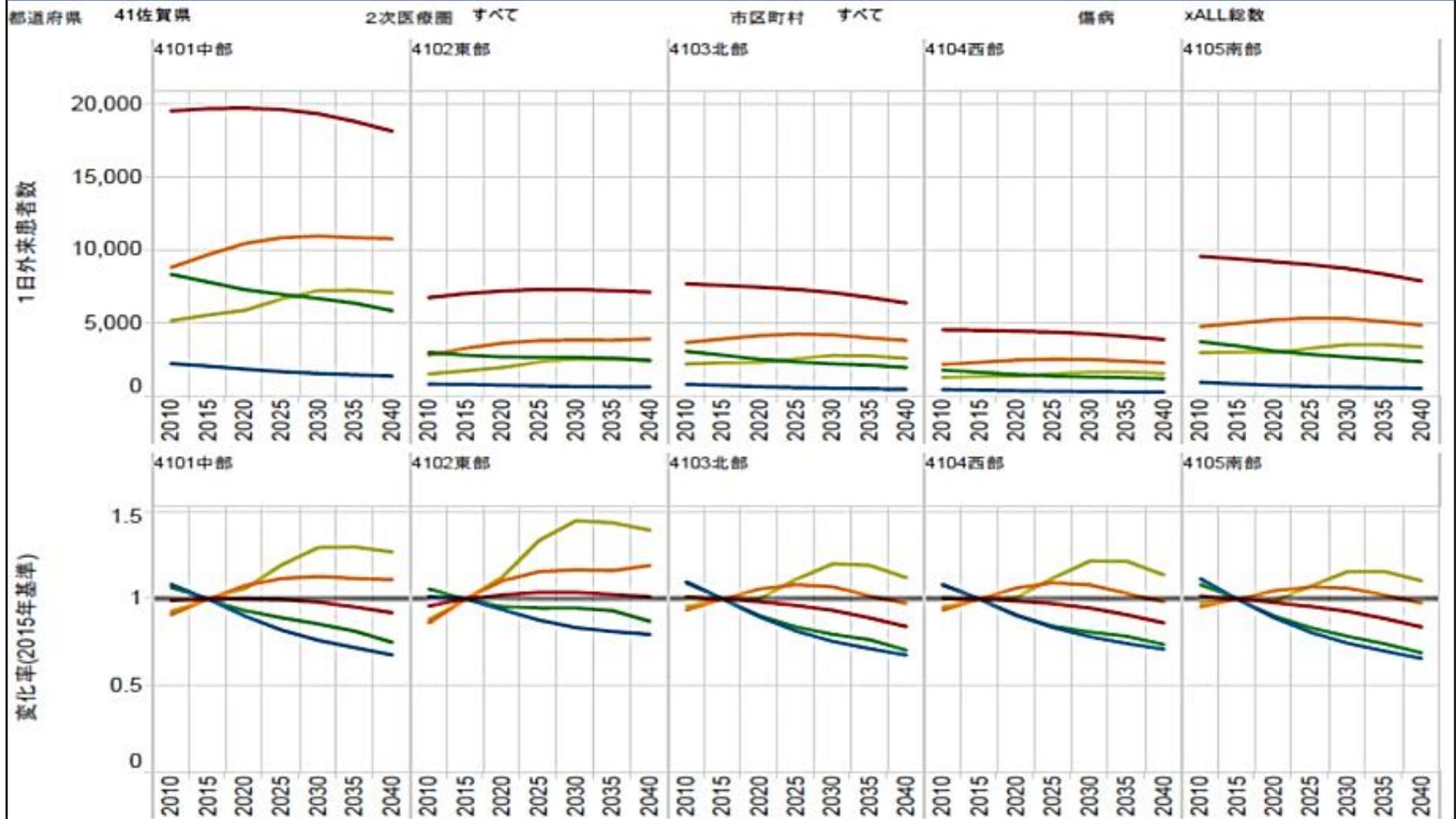
平成26年患者調査を基にした循環器系疾患の入院需要推計

- 循環器系疾患全体は2040年まで伸びるが、脳梗塞、心不全の患者数が多い。
- 75歳以上の人口の伸びに呼応していること、脳卒中が介護の原因第1位であること、心疾患は再入院率が高いことなどから、両疾患の医療提供体制の構築にあたり、脳卒中においては、一貫した流れでのリハビリ、介護サービスとの連携、心疾患においては、基幹病院とかかりつけ医との連携体制の充実が重要。



平成26年患者調査を基にした外来患者の需要推計

- 外来患者数は、北部、西部、南部ではすでに減少傾向に入っていることが見込まれる。
- 75歳以上の外来患者数も、全圏域ともに2030～2035年がピークと見込まれる。



H26患者調査-入院受療率(全国)社人研人口推計に基づく簡易版入院患者推計 - kishikaw@ncc.go.jp 総数/15歳未満/15-64歳/65歳以上/75歳以上(再掲)